

— 目 次 —

新県計画シリーズ (3)

□ 九州中央都市軸における
中核的な工業地帯として

- ★工業開発の基本的方向……………9
- ★有明工業地帯の形成……………11
- ★熊本工業地帯の形成……………14
- ★八代工業地帯の形成……………16
- ★中小工業の近代化……………28
- ★海洋開発の促進と地下資源……………31
- ★エネルギー資源の開発……………32

□ ここに人あり □

花の譜・山村 純代さん……………25

□ 県政なんでも相談室

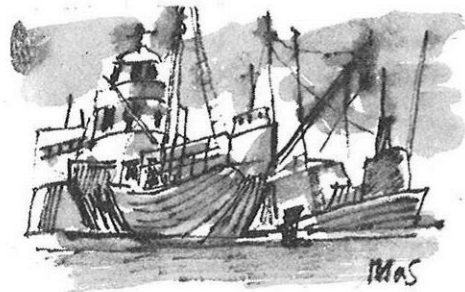
- 1. 県産業開発青年隊へ入所したいが……………34
- 2. 野菜生産出荷安定法とは……………35

★ 随想ページ

中村竜石 ・ 波多野ガク ・ 緒方益夫

★ グラビヤページ ★

- 新しい工業地帯ほか
- ★ センターカラー……………有明フェリー
- ★ 表 紙……………荒尾・大島風景
- ★ 目次・随想欄カット……………緒方益夫



▶ 学習林の手入れに汗を流す。



▲ 月一回、会員宅を持廻りて定例会を開く。話に熱が入り、深夜におよぶこともしばしば。



▲ しいたけ栽培も経営の一環。タネ打込みの前に雑菌が入らぬよう気を配る。

山をひらく若い仲間

★ 菊池市竜門林研グループ
原本重利君

菊池市の北に標高千五百二十メートルの八方ヶ岳がある。その中麓の美しい自然に囲まれて鳳来(ほうぎ)部落があり、そこに、すくすくとびる杉のようにたくましい九人の若者たちがいる。林業経営に青春をかけ、お互いの向上と親ほくを目的として、昨年一月竜門林業研究グループを結成。平均年齢二十三歳。これまでに、県事務所林務課の技師を講師に、月一回の定例会・測量技術・立木の石数計算・他グループとの交換会・林地肥培実験など活発な活動を行なっている。

原本重利君(二十二)は、このグループの中心的存在である。三十九年菊池竜門中卒。成績優秀であったが、家事の都合で進学をあきらめ、林業経営に踏み切った。二・三年は無我夢中だった。育林は二十年・三十年と息の長い勝負である。ガムシヤラな体験から、第一歩が肝心であることを学びとった。原本君は現在、五十六ヘクタールの山林に、杉・ひのきの造林を着々と進めている。「これからは面積の拡大よりも良質の山林を造ることに専念したい」山をふり仰ぐ彼の額に汗が光る。

林研グループの推進役である彼は森林組合・農協などの役員でもあり、公私ともに忙しい。スポーツは万能で、一昨年の菊池神社の奉納相撲で個人優勝を勝ちとった程の「つわもの」だ。